

ハワイ語新聞への学際的アプローチ

—日本・日本人・日系人関連記事の分析—

Taking an interdisciplinary approach to Hawaiian language newspapers
—An analysis of articles regarding Japan, Japanese, and Japanese immigrants—

古川 敏明¹

¹大妻女子大学文学部

Toshiaki Furukawa¹

¹Faculty of Language and Literature, Otsuma Women's University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：ハワイ語新聞，日本，日本人，日系人

Key words : Hawaiian language newspaper, Japan, Japanese, Japanese immigrants

抄録

ハワイ語には先住民語としては例外的に膨大な資料であるハワイ語新聞が存在する。ハワイ語新聞はこれまで主にハワイ先住民に関する研究に利用されてきた。しかし、ハワイ語新聞には先住民の言語文化以外についても多くの情報が含まれている。本稿は日本・日本人・日系人に関する研究にハワイ語新聞を用いる試みである。2014年度中に収集・翻訳した1904年から1946年の記事を年代別に示し、記事の中で描かれるハワイの日本人イメージを分析する。

1. 導入

本研究は先住民語としては例外的に膨大な文書が残されているハワイ語新聞、特に日本・日本人・日系人に関する記事を分析する試みである。日本国外ではハワイ語新聞が学術研究に利用され始めているが、それらは主にハワイ先住民に関する研究であり、日系移民など他民族に関する研究はほとんど行われていない。一方、日本国内では日系移民についての研究の蓄積はあるが、ハワイ語新聞が資料として用いられたことはない。

ハワイでは1820年ごろまでにハワイ語の正書法制定と聖書の翻訳が行われ、新聞発行への序章となった。ハワイ語新聞は王国があった1834年からアメリカ合衆国併合後の1948年まで114年間にわたって100紙以上の週刊および日刊紙が発行された。これらの新聞は発行者の宗教・政治的立場によって、宣教系、政府系、独立系に分類される。ハワイ語新聞は19世紀のハワイの識字率が世界的に見て極めて高かったという逸話とともに言及されることが多い。

ハワイ語新聞のページ数は約12.5万ページ、A4

用紙に換算して約150万ページになり、英語に翻訳されたのは全体のわずか2%、電子化されオンライン検索が可能なのは全体の10%である^[1]。記事の内容はハワイおよび世界のニュース、社説、物語、計報記事、広告、読者投稿など現代の新聞と変わらないものから、船の発着日の告知など時代を反映したものまでさまざまである。このようにハワイ語新聞には膨大な情報が含まれているので、神話や物語、儀礼、詩などテーマ別に情報を抽出して英語に翻訳した著作が出版され、ハワイ先住民の言語文化の復興運動において不可欠な文化資源となってきた。

2. 先行研究

ハワイ先住民に関する研究で用いられてきた主要な英語文献は、ハワイ語からの翻訳書が少なくない。1834年から1948年まで114年間にわたり、100紙を超えるハワイ語新聞に掲載された記事の中から関連トピックを抽出して、編纂し、英語に翻訳して出版された文献のことである。

Nogelmeier^[2]はこうしたいわば「聖典」を用いる限

界を指摘し、一次資料であるハワイ語新聞の記事を用いた研究の必要性を訴えている。Nogelmeierの著作に関する批評においても、ハワイ語新聞を用いた研究の可能性が論じられている¹³⁾。

ハワイ語新聞を用いた研究はまだ数が少ないが、トピックごとに分類するならば、ハワイ先住民に関するものとそれ以外の民族集団に関するものに大別できる。本稿はより研究の蓄積が薄い後者に貢献することを目指し、特に日本・日本人・日系人に関する研究プロジェクト¹⁴⁾¹⁵⁾を拡充するものである。

3. 方法

本年度は複数年にわたる研究計画の1年目と位置づけ、関連記事のコレクションの構築を開始した。まず、ハワイ先住民の言語文化に関するオンライン・データベース、パパキロ (Papakilo) で記事の検索を行った。Search by Source で Newspapers を選択し、検索語として Japanese を意味し、英語からハワイ語への借用語であるケパニー (Kepani) を用いて記事検索を行うと、ヒット件数は11,561件 (2014年11月現在) であった。続いて、検索結果一覧の最初の記事から順番に複数の記事を約1,000語になるようにとりまとめた。これらをリサーチアシスタント (RA) 2名が英語に翻訳した。

上記の手順で今年度は36本の記事を収集・翻訳した。これらは1904年から1946年の間に発行されていた。中でも1930~40年代に発行された戦争関連の記事の数が多く、ハワイ在住の日系移民と他の民族集団の関係性に言及する記事もあった。これらの記事の出典は6紙からであるものの、多くは3紙 (Ka Hoku O Hawaii, Ka Nupepa Kuokoa, Ke Alakai O Hawaii) からとなっている。なお、Ka Hoku O Hawaii は1917年から1948年まで、Ka Nupepa Kuokoa は1861年から1927年まで発行され、Ke Alakai O Hawaii は1887年から1888年、1919年から1920年、1928年から1937年までの3期間に発行された。また、記事は100語以下の短いものと100語以上のものがおよそ半数ずつという割合で、すべての記事が署名なしであった。

本年度のうちに下訳が完成した記事について、年代ごとの内訳を示すと、1900年代11本、1910年代7本、1920年代0本、1930年代10本、1940年代8本である。今のところ1920年代の記事は0本であるが、今後調査を継続すれば本数が増える

と考えられる。本稿ではこれらを分析対象とし、原典と翻訳を相互参照して分析を行った。

4. 分析・議論

2014年度に翻訳した記事は、1902年から1946年の間に発行されていた。これらは決して網羅的ではないが、おおよその全体像を示すためにも、年代ごとにいくつかの記事に言及し、日本・日本人・日系人がどのように描かれているかという点に着目する。

まず1900年代は「ロシア人捕虜が日本人によって移送される」(1905年)のように、日露戦争にまつわる見出しがある。これはハワイの日本人というより、国際舞台における日本についての記事である。一方、ハワイの日本人が関与した傷害事件や窃盗事件についての記事が散見される。また、「日本人のハンセン氏病患者を日本に戻す」

(1908年)という見出しからは、日系移民と本国である日本との関係をうかがい知ることができる。さらに、「日本人は植民地政府を望んでいる」

(1909年)というように、ハワイの統治形態に関する日本人の立場を報じる記事もある。ハワイ王国は1893年にアメリカ軍の協力を得たアメリカ人実業家によって転覆され、1898年にアメリカ合衆国に併合されているので、記事が書かれた1909年当時のハワイはアメリカの準州という位置付けだった。日本人は植民地化されたハワイという統治形態を歓迎する存在として言及されている。王国の復興を願うハワイ先住民からしてみれば、相反する利害関係を有する民族集団ということになるだろう。

続いて1910年代は、ハワイの日本人が関与した傷害事件などが報じられている一方で、「日本人が厚生局を助ける」(1916年)という見出しがあり、ハワイの日本人は法律を理解していないため、厚生局に出生届けをすべきところを総領事館にしか届け出ない人が多く、厚生省と総領事館の統計に差があることが問題視されている。一方で、「日本人は戦争に参加する準備ができています」(1917年)という記事では、第一次世界大戦の文脈において、アメリカがドイツに対して宣戦布告した場合、アメリカ軍に入隊を希望する日本人が数百人いると報じられている。日本人は移民ではあるけれども、アメリカに対する忠誠を示す存在として描かれている。

今回のデータには 1920 年代の記事はなかったので、続いて 1930 年代の記事を見てみると、ハワイの外、国際舞台における日本に関する記事が目立つ。ほとんどが 1934 年の記事であり、たとえば「日本人による中国の鉄道の占拠が目撃される」（1934 年）というように満州事変について報じられている。

1940 年代の記事を見てみると、ほとんどが太平洋戦争に関する報道であり、「日本の戦艦が撃沈される」（1943 年）というように日本の劣勢（あるいはアメリカの優勢）を伝えている。また、「日本人の規則が取り除かれる」（1945 年）という記事は、フィリピンが日本からアメリカの統治下に変った結果、フィリピン人がハワイの日本人がするようなお辞儀をしなくなり、アメリカ式に笑顔で手を振って挨拶するようになったと報じている。

最後に Ka Hoku O Hawaii に掲載された記事（1946 年 8 月 28 日）を分析する。ハワイ語新聞の特徴を把握するために、以下に一面（Page 1）の画像を示す。



図 1. Ka Hoku O Hawaii (Page 1)

出典：Ho'olaupa'i (nupepa.org)

一番上に大きく目立つ書体で横書きされているのが新聞名である。新聞名の両隣にはハワイを想起させるイラストが配置されている。左がサーフィンをする人物、右がカメハメハ王像である。一面には 7 つの欄が均等に並んでおり、目立つ書体で見出しが書かれ、その後に記事本文が続いている。一面の右下には 2 つの欄にわたって広告が掲載されている。

次に記事の見出しと本文を示す。上記一面の左

端の欄に掲載されている記事である。

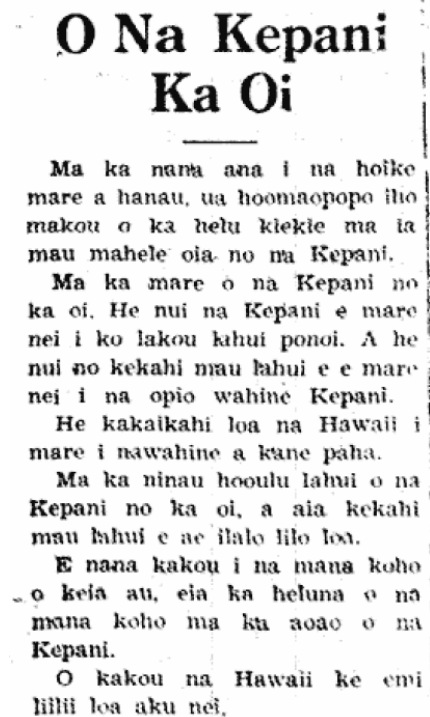


図 2. 記事 1

出典：Ho'olaupa'i (nupepa.org)

記事 1 の見出しは「日本人は抜きん出ている」となっている。段落ごとに日本語訳を示す。

【第 1 段落】婚姻と出生に関する報告書を見ると、私たちに日本人がこれらの部門で最大の集団であることがわかる。

【第 2 段落】婚姻では日本人が抜きん出ている。日本人は自己の民族集団の相手と結婚する人数が多い。若い日本人女性と結婚する他の民族集団も多い。

【第 3 段落】日本人の女性あるいは男性と結婚するハワイ人はほとんどいない。

【第 4 段落】国を成長させることにおいては日本人が最も優れている。そして、そのずっと下にいくつかの民族集団が位置している。

【第 5 段落】現在の投票者数を見てみよう。ここに日本人の投票者数がある。

【第 6 段落】私たちハワイ人は少しずつ減少している。

見出しも含め 135 語からなる短い記事の中で、具体的な数字が示されることはないが、なんらかの報告書が参照されている。そして、報告書の婚

姻に関する項目に言及し、ハワイの日本人と他の民族集団との関係について述べている。最後は投票者数（有権者数）に言及し、日本人とハワイ先住民を比較している。

以上のような記事において、ハワイの日本人はどのような集団として提示されているだろうか。まず、日本人像は他民族との関係性を通して描かれている。日本人は自民族の間で結婚し、他民族と結婚するのは日本人女性であると述べられている。他民族の中でも、特にハワイ先住民との通婚は数が少ないとされている。ここで語られている日本人のイメージは、3世以降になるまで他民族集団との通婚が一般的でなかったという通説と合致する。（とはいえ、実際には先住民の言語文化の復興に携わっている人物の中に、いわゆるパート・ジャパニーズでもあるハワイ先住民は少なからず存在することを忘れるわけにはいかない。）

また、ハワイの日本人は自民族集団の中で結婚し、集団を大きくすることに長けた集団として描かれている。日本人が増えれば、ハワイ先住民はさらなる少数派へと押しやられるかもしれない。ところが、こうした日本人の行動は、王国を失い、自らの土地で少数派となったハワイ先住民にとって脅威であるというような論じられ方はされていない。ハワイの日本人を先住民に対する脅威とし、民族間の対立を煽るというより、日本人の特徴を賞賛する一方で、それとは対照的に少しずつ衰退していく先住民の共同体について嘆くというような論調である。

5. 結論

ハワイ語新聞は、先住民に関する研究以外ではほとんど利用されてこなかった。本プロジェクトは、日本・日本人・日系人に関する記事を検索し、その中で語られるイメージを概観することを試みた。2014年度に収集・翻訳した記事は数十に過ぎないが、本稿では20世紀前半に発行された記事を年代別に示し、国際舞台における日本やハワイの日本人・日系人と他民族集団との関係性について検証した。記事の中で語られるハワイの日本人のイメージは通説と合致するものであり、ハワイ語新聞ならではの語り的一端を垣間見ることはできたとしても、主流メディアで語られる日本人像と

大きな差は認められなかった。ハワイ語新聞を資料として用いる研究の意義は、英語による主流メディアにおける語りとは異なる語り、ハワイ語新聞ならではの語りがあるかどうかを探求することだといえるかもしれない。次年度以降も記事のコレクションを構築し続け、新資料としてのハワイ語新聞の分析を通じ、その中で描かれる民族間関係の事例を積み重ね、日系移民の研究など関連領域に貢献することを目指したい。

付記

本研究は平成26年度大妻女子大学戦略的個人研究費（課題番号S2632）の助成を受けたものである。RAとして翻訳を支援してくれたハワイ大学マノア校の大学院生クーリアとカハヌオラにも感謝申し上げる。

引用文献

- [1]Nogelmeier, M. Puakea. *Mai pa‘a i ka leo: Historical voice in Hawaiian primary materials, looking forward and listening back*. Bishop Museum Press, 2010.
- [2]Nogelmeier, M. Puakea. *Mai pa‘a i ka leo: Historical voice in Hawaiian primary materials, looking forward and listening back*. Bishop Museum Press, 2010.
- [3]Furukawa, Toshiaki. Using Hawaiian language newspapers generates unique research [Review of the book *Mai pa‘a i ka leo: Historical voice in Hawaiian primary materials, looking forward and listening back*]. *International Journal of Sociology of Language*. 2012, 218, pp. 217-220.
- [4]古川敏明. “真珠湾, パールハーバー, プウロア: ハワイ語新聞の予備的分析”. 大阪大学大学院言語文化研究科 (編). *批判的社会言語学の方法 言語文化共同研究プロジェクト2011*. 大阪大学大学院言語文化研究, 2012, pp. 31-40.
- [5]古川敏明. “ハワイ語新聞が創出する読者: 真珠湾攻撃2周年を報じるテキスト分析”. 大阪大学大学院言語文化研究科 (編). *批判的社会言語学の方法 言語文化共同研究プロジェクト2012*. 大阪大学大学院言語文化研究, 2013, pp. 29-37.

Abstract

The Hawaiian language has an exceptionally large body of resources for an indigenous language, including Hawaiian language newspapers, which have been used primarily for research on Native Hawaiians. However, these newspapers contain much information on various matters, not all of which are focused on the indigenous people. The present paper reports a study on issues relating to Japan, Japanese, and Japanese immigrants that was conducted by using Hawaiian language newspapers as the primary resource. It investigates newspaper articles published between 1904 and 1946 and collected in 2014, and it analyzes the way these articles describe Japanese people in Hawai'i.

(受付日：2015年6月27日，受理日：2015年7月7日)

古川 敏明（ふるかわ としあき）

現職：大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科 講師

ハワイ大学マノア校言語学研究科博士課程修了．Ph.D. (Linguistics).

専門は社会言語学，ディスコース分析．

主な著書：ハワイを知るための60章（分担執筆，明石書店）